

平成30年度 第5回 小野申人といきいきトーク

と き	平成31年1月24日（木）19時～20時30分
と ころ	府中市立国府小学校
テ ー マ	子育て・教育、地域づくり、防災
出席者	学校運営協議会委員13名 小野市長、栗根総務部長、九十九健康福祉部長、 若井建設産業部長、門田学校教育課長

《教育》

CSの取り組みを続けて

- ・ 子供たちが、参加するのではなく、手伝わせてくださいという行動になっている。参画意識が高まっており、CSの効果だと感じる。
- ・ 子供の道の横断の見守りをしているが、挨拶が活発になった。今年に入り、子どもたちの行動が目に見えて変わってきた。
- ・ 演ジョイ祭りのプレゼンを生徒がし、それに対する意見から、改善策を提示してくる。行動力も発想も素晴らしい。その内容をできるだけ実現させるようにしている。祭りの後、6年生は自信がついて一回りも二回りも成長している。今後も続け、大事にしていきたい。
- ・ CSが保護者・地域に浸透していく中で、「教育を手伝うことができるよ」という声が出てきている。夏に寺子屋で勉強して、その後に水鉄砲をして楽しんだ。星空観察も地域の方が主導した。学校の学びに参加していただけるのが本当にありがたい。
- ・ 学びを実際の力として学び、生きる力になってきている。CSの力と、地域の方や保護者の力を借りてすることで学びが深まるというのを実感している。
- ・ CSで顔を合わせるようになり、要望がくるようになった。サロンで作業をやらせてくれとか、こちらも頼みやすくなった。
- ・ PTA役員をするようになり、地域の方と知り合え、地域の方の思いを知ることができた。役員だけでなく、全保護者に知ってほしいが、CSが何かも分からない人もいる。保護者にうまく発信し、関わりを作っていきたい。

どこの地区でもCSを知る人が少ないことを悩みに思っている。良いCSの広げ方を考えていければ。

市

保幼小中の連携

- ・ 府南学園は、4小1中なので学園とは違い、小学校と中学校を繋ぐことが必要。保育所に行き、年長時にリーダーをしていた、小学校1年生を、どこか幼児扱いをし、保育所で育てたものを、小学校で台無しにしていたのではないか。もっとできる子に可能性を持たせることができたのではないかと感じた。保幼小の連携も大事だと気付いた。連携することでより質が高い教育になっていくと感じた。

その他

- ・ 子どもの名札について、各学校で見えるようにしているところとそうでないところがある。

基準は、子どもを守るため、不審者に子どもの名前がわからないよう通学では隠す方向で判断している。各学校で違いがあるのは、確認していく。

課長

《地域づくり》

- ・ グランドゴルフに子どもたちを誘うと喜んでくれるが、来てくれた子が少なかった。子どもは勉強やクラブ活動などで忙しい。どこかで調整する部署があれば。

《子育て》

- ・ 子どもの貧困について、外とのつながりをシャットアウトされると僕たちも気づけない。地域の方たちと協力して、子供の変化に気づき、しんどい思いをしている子供を救ってあげられればいいと思う。

他の学区でもネグレクトやDVの話がでてくる。個人情報があり、みんなで情報を共有がすることが難しいが、地域として子どもを見守っていくのも一つの方法と思う。

市

- ・ 子どもの貧困対策に学習支援、子ども食堂などのボランティアを退職公務員の会がしている。

寺子屋も子ども食堂も門戸を広くしている一方で本来来てくれたらいいのにと思う子どもたちに情報が伝わっていなかったりする。学校とも連携をとっていかないといけないところ。新年度からネウボラを始めて、早い段階から関わり、見守っていけるように取り組んでいく。

市

《防災》

- ・ 運営協議会部会を中心にして、防災訓練をした。学校の体育館、グラウンドを使用し、関係各所に協力をしてもらった。公民館を通じ回覧板をまわし、出席をとって、400何名の参加があった。実際に家から、第一次避難場所へ移動、点呼等をしてしながら、被害状況の報告までした。次に避難経路を確認しながら、学校のグラウンドに集合し、報告してもらった。そして、119番通報体験、煙体験をして、救命訓練、消化訓練、バケツリレー、救助訓練をして終了。総務課に非常食、飲み物の提供してもらった。防災グッズの展示もした。
- ・ 市が指定している避難所もあるが、町内会独自で会社を3つ避難場所として指定している。市の方から、お礼状などを出してもらえたら。

- ・ 高齢で車に乗れないため、避難所が遠く、そこまでいけないという人もいる。
- ・ 要支援者が要支援者を見るという状態。例えば、息子がいるなら、息子にみてもらうなどにはどうか。

他の地区でも、介護施設を開放してもらったところもある。避難情報を早めに出し、ゆっくり避難できるようにしているが、要支援者をどうするのかなども課題として残っている。

市

- ・ 避難場所が各町で2～3か所あってもいいのでは。災害は同じものが起こるとは限らないので医療関係とも連携をしてほしい。その話は、市からか、町内会であるのか。

医療体制は、災害によって変わってくるが、大きくなると福山市民病院にかかるようになる。府中地区医師会の体制はできているが、細かいところは、これからのので、市も一緒になって作っていかなければいけない。

部長

避難場所を各町で2～3か所となると避難所の開設を町内会にお願いすることになる。町内会長と連絡を取り、見直しも含めて地域の実情も聞くようにしている。

市

- ・ 地区で浸水被害があり、ハード面では実働部隊を立ち上げ、ソフト面ではエリアメール受信ができるできないの把握をしている。避難所は、学校と体育館から武道場に変更した。だが、避難を呼びかけてもなかなか避難してくれない。
- ・ これからいろんな協定を結んでいく予定。
- ・ 樋門の管理者を、閉めるの遅かったなど非難するの声があり、それを受けて、もうやめると言われている。砂川のところは、数十年誰も触っていない状態で、上水下水道課がグリスを塗ることで多少は良くなったが、開閉に3人は必要となる。お願いしても断られ、4月から管理者がいない状態。

自分の命さえ危ない状況で、樋門の管理までしていただいている。そのことについても、また協議しないといけない。

市

- ・ 川が氾濫しそうで、土嚢が積んでもらったが、片付ける人がいない。本山の土砂崩れがここから見える。復旧はこれから。災害を自分のものとして考えないといけない。

《その他》

- ・ 南北道に信号機と道の拡幅をお願いしている。

道路の拡幅は、道路整備とともにする予定。保育所から出るところは、関係者との話についてはいる。

部長

《最後に》

今後も意見を聞く場を今後も持ちたい。教育だけでなく、防災を含め、地域と市役所は連携していかなければいけない。

